

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月21日

西華産業株式会社
(東証1部 証券コード8061)

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。



1

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

皆様、こんにちは。

社長の櫻井でございます。

皆様方には、平素より西華産業にご関心をお寄せ頂き、

また、決算説明会にご出席たまわりまして、

誠にありがとうございます。

それでは、決算説明を始めさせていただきます。

目次

1. 2019年3月期 第2四半期 連結決算概要
2. セグメント別事業の概況
3. 2019年3月期 通期 連結決算予想
4. 中期経営計画
5. トピックス
6. 株主還元 配当性向

★参考資料★



2

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

本日は、ご覧の通り、

- ・2019年3月期 第2四半期の連結決算概要、
- ・セグメント別事業の概況、
- ・通期の連結決算予想、
- ・中期経営計画
- ・トピックス、
- ・株主還元、配当性向

について、スライドを用いてご説明させていただきます。

なお、投資家の方々よりご要望いただいております

業績の推移表などにつきましては、参考資料に纏めておりますので
どうぞご覧ください。

1. 2019年3月期 第2四半期 連結決算概要



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

3

まずはじめに、第2四半期の連結決算概要につきまして、
ご説明いたします。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要①				
	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	増減率	
受注高	66,321 百万円	80,728 百万円	+21.7 %	
売上高	65,858 百万円	97,676 百万円	+48.3 %	
営業利益	1,144 百万円	860 百万円	△24.9 %	
経常利益	1,284 百万円	992 百万円	△22.8 %	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	770 百万円	837 百万円	+8.6 %	
1株当たり 四半期純利益	59.46 円	66.21 円	+11.4 %	
純資産額	29,329 百万円	29,549 百万円	+0.8 %	
総資産額	120,212 百万円	83,878 百万円	△30.1 %	
自己資本比率	23.9 %	34.5 %	+10.6pt	



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

4

ご覧の通り、当社グループの業績は、

受注高は、 807 億円

売上高は、 976 億円

営業利益は、 8億6千万円

経常利益は、 9億9200万円

と、増収減益となりました。

一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、 8億3700万円
となり前年同期に比べ増益となりました。

これについては、投資有価証券売却益などの特別利益を計上した
ことに加え、エヌ・エス・テックの株式譲渡および債権放棄の際に
生じた損失を前期に有税処理していたため、当期の税金費用が
減少いたしました。

2. セグメント別事業の概況



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

5

次に、セグメント別に事業の概況をご説明させていただきます。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要 (セグメント別売上高およびセグメント利益の実績)

	売上高		セグメント利益	
	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減率	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減率
電力事業	30,109百万円	+32.3%	823百万円	△8.2%
化学・エネルギー事業	40,799百万円	+188.3%	473百万円	+24.7%
産業機械事業	20,891百万円	△7.5%	530百万円	△34.6%
素材・計測事業	552百万円	△50.8%	△230百万円	△5.4%
グローバル事業	5,324百万円	+1.3%	106百万円	+59.6%
合計	97,676百万円	+48.3%	1,703百万円	△10.9%



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

6

第2四半期の総括ですが、化学・エネルギー事業と、電力事業は底堅く収益を維持できたと考えますが、素材・計測事業は業績が低迷いたしました。なお、産業機械事業は、下期に案件が集中していますので、挽回が図れる見込みであります。

後程、セグメント別に詳細をご説明させていただきます。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

(セグメント別 受注高および受注残高の実績)

	受 注 高		受 注 残 高	
	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増 減 率	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増 減 率
電 力 事 業	19,871百万円	△8.6%	27,149百万円	△31.0%
化学・エネルギー事業	32,598百万円	+195.9%	58,135百万円	+3.6%
産 業 機 械 事 業	22,393百万円	△15.4%	60,759百万円	△36.0%
素 材 ・ 計 測 事 業	383百万円	△76.0%	1,217百万円	△5.2%
グ ロ ー バ ル 事 業	5,481百万円	△0.4%	2,614百万円	△6.6%
合 計	80,728百万円	+21.7%	149,877百万円	△22.9%



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

7

こちらは各セグメント毎の受注高、受注残高をまとめたものです。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

電力事業

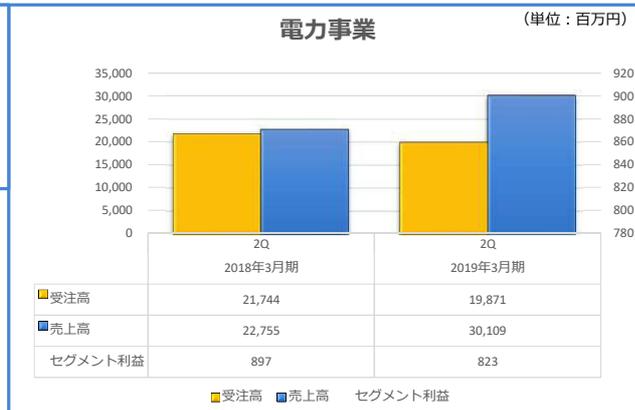
事業内容

電力会社や共同火力向けに、ボイラー、ガスタービンなどの発電設備、環境保全設備の販売。
原子力発電所向けにセキュリティ設備や消火設備などを販売しております。

2019年3月期 第2四半期の概況

売上高 増加

- ・電力会社向け
発電設備用大型部品等の売上が増加



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

8

8 ページ目をご覧ください。

ここからは、各セグメント毎に当第2四半期の実績をご説明いたします。

まず、当社の基幹事業である電力事業の売上高は、電力会社向け発電設備用 大型部品等の売上が増加し、301億9百万円となりました。

一方、セグメント利益は、大口案件が多く、比較的利益率の高い中・小型案件が少なかったことから、8億2300万円に留まりました。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

化学・エネルギー事業

事業内容

化学会社、石油会社、製紙会社、鉄鋼会社、鉄道会社向けに発電設備やプロセス用製造設備を販売しています。

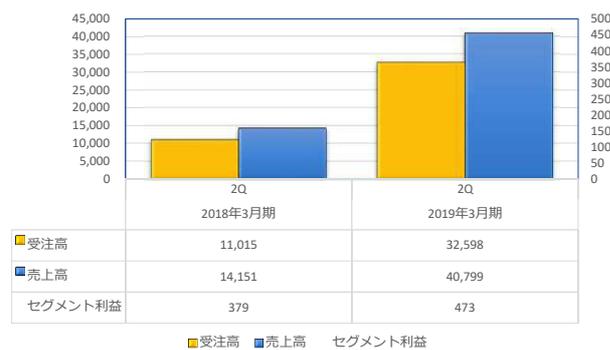
2019年3月期 第2四半期の概況

売上高 大幅増加

- ・石油会社向け発電設備
約260億円の大口受渡完了

化学・エネルギー事業

(単位：百万円)



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

9

次に、化学・エネルギー事業ですが、石油会社向け発電設備
約260億円の大口受渡があり、売上高は407億9900万円とな
りました。

また、セグメント利益も4億7300万円と増加いたしました。

受注高は、前年同期に比べ約215億円増加しましたが、
これは化学会社向け新設の発電設備 約160億円の受注に
よるものであります。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

産業機械事業

事業内容

医薬、食品関連設備やプラントエンジニアリングなど幅広い産業分野の顧客に対して、設備や機器を販売するほか、メンテナンスも提供しております。

2019年3月期 第2四半期の概況

売上高 減少

- ・ 子会社の日本ダイヤバルブの業績は順調に推移
- ・ リチウムイオン電池関連設備の受渡が下期に集中



10

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

次に、産業機械事業です。

本事業に属する子会社の日本ダイヤバルブの業績は順調に推移いたしましたが、リチウムイオン電池用関連設備の受渡が下期に集中することから前年より減少し、売上高は208億9100万円に留まり、セグメント利益も、5億3000万円となりました。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

素材・計測事業

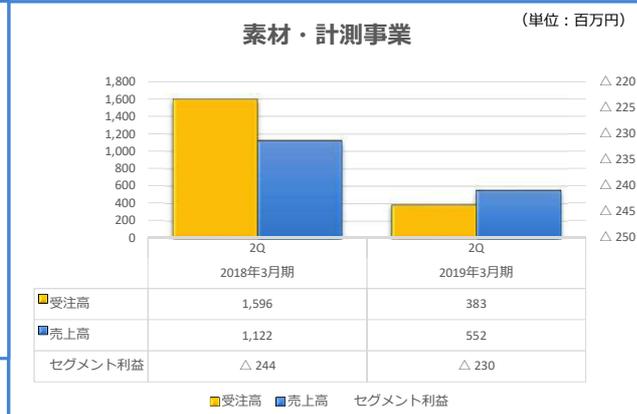
事業内容

電子機器用プリント基板製造関連装置などを販売しているほか、先端技術を駆使した計測機器を始め、産業機械向けの環境保全用計測装置や、水処理関係装置などを幅広く扱っております。

2019年3月期 第2四半期の概況

売上高 減少

- ・ 電機業界向けプリント基板素材の売上が減少
- ・ 子会社 西華デジタルイメージの業績が低迷
- ・ 子会社エヌ・エス・テックの株式譲渡および債権放棄



11

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

こちらは、素材・計測事業です。

白物家電の国内生産の撤退に伴い、家電用プリント基板素材の売上が減少した結果、売上高は5億5200万円となりました。また、子会社の放送映画用デジタル機器などを取り扱う西華デジタルイメージの業績が低迷したことにより、セグメント損失は2億3000万円となりました。

本事業につきましては、経営資源の選択と集中を進め、来年度にはセグメント赤字からの脱却を目指して参ります。

2019年3月期 第2四半期 連結決算概要

グローバル事業

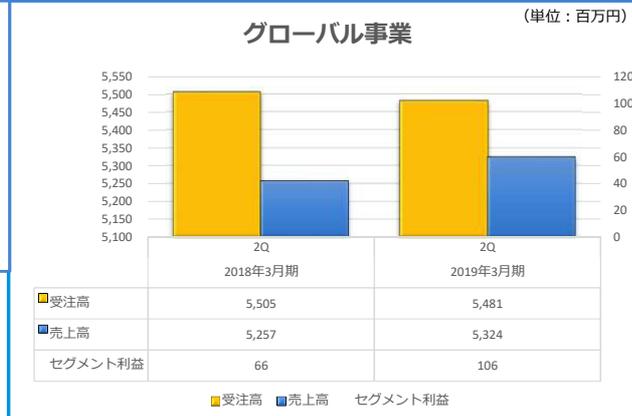
事業内容

(欧州) 車載関係の産業用ロボット販売のほか、水中ポンプの販売およびレンタル事業を展開。
 (北米) 日系自動車関係にエレクトロニクス基板実装関連機器を販売。
 (アジア) 繊維、化学、その他一般産業向けに機械設備の販売。

2019年3月期 第2四半期の概況

売上高 伸長

- ・ Tsurumi (Europe) GmbH (ドイツ)
- Seika Sangyo GmbH (ドイツ)
- Seika Machinery Inc. (米国)
- 欧米子会社の業績が順調に推移



最後に、グローバル事業につきまして、ご説明いたします。
 ドイツ子会社のTsurumi (Europe) GmbH とSeika Sangyo GmbH
 並びに米国子会社のSeika Machinery Inc.
 の3社の業績が順調に推移した結果、
 売上高は53億2400万円となり、
 セグメント利益も1億600万円と増益となりました。

3. 2019年3月期 通期 連結決算予想



13

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

13 ページ目からは、通期の連結決算予想につきまして
ご説明いたします。

2019年3月期 通期 連結決算予想

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 通期予想	増減率 (対前期比)
売上高	1,655.8 億円	976.7 億円	1,750 億円	+5.7%
営業利益	25.9 億円	8.6 億円	31 億円	+19.3%
経常利益	28.7 億円	9.9 億円	34 億円	+18.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	16.5 億円	8.3 億円	22 億円	+32.9%



14

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

日本経済につきましては、緩やかな回復基調が続いておりますが、海外経済につきましては、米中貿易摩擦などの影響が懸念され、先行きは不透明な状況が予想されます。

このようなビジネス環境のもと、通期の連結業績につきましては、

売上高は、 1, 7 5 0 億円

営業利益は、 3 1 億円

経常利益は、 3 4 億円

当期純利益は 2 2 億円

と、増収増益を予想しております。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (セグメント別売上高およびセグメント利益予想)						
	売上高			セグメント利益		
	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
電力事業	301.0 億円	480 億円	△3.4%	8.2 億円	14 億円	△29.1%
化学・エネルギー事業	407.9 億円	550 億円	+120.9%	4.7 億円	10 億円	+44.7%
産業機械事業	208.9 億円	580 億円	△23.8%	5.3 億円	18 億円	△1.4%
素材・計測事業	5.2 億円	20 億円	△15.2%	△2.3 億円	△1.3 億円	△55.1%
グローバル事業	53.2 億円	120 億円	△3.7%	1.0 億円	3 億円	2018年3月通期実績 セグメント損失 0.9億円
合計	976.7 億円	1,750 億円	+5.7%	17.0 億円	43.7 億円	+5.5%

15 ページ目には、セグメント別の売上高予想と利益予想を纏めております。

化学・エネルギー事業は10億円の利益を予想しており、前年に比べ業績が回復する見込みです。

また、産業機械事業は下期に受渡が集中する見込みであることから、底堅く業績が推移する見通しです。

その他の事業につきましても、第2四半期までと同様に、業績が進捗するものと予想しており、素材・計測事業は赤字幅の縮小を見込んでおります。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (セグメント別 受注高および受注残高 予想)						
	受 注 高			受 注 残 高		
	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
電 力 事 業	198.7 億円	580 億円	+24.0%	271.4 億円	473 億円	+26.5%
化学・エネルギー 事 業	325.9 億円	550 億円	+71.8%	581.3 億円	663 億円	+0.1%
産 業 機 械 事 業	223.9 億円	530 億円	+19.4%	607.6 億円	542 億円	△8.5%
素 材 ・ 計 測 事 業	3.8 億円	20 億円	△31.8%	12.1 億円	13 億円	△6.2%
グ ローバル 事 業	54.8 億円	120 億円	△3.0%	26.1 億円	24 億円	△3.0%
合 計	807.2 億円	1,800 億円	+30.0%	1498.7 億円	1,718 億円	+2.9%



16
Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

続いて、16 ページ目には、セグメント別の受注高予想と受注残高予想を纏めております。

受注高につきましては、安定した経営の実現に向けて、将来を予測する重要な指標の1つとして活用しております。

ご覧の通り、通期の受注高は、1800 億円を予想しており、受注残高は、1718 億円の見込みであります。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (電力事業)

電力事業	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 下期予想	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
売上高	301.0 億円	179 億円	480 億円	△3.4%
セグメント利益	8.2 億円	5.8 億円	14 億円	△29.1%
受注高	198.7 億円	381.3 億円	580 億円	+24.0%
受注残高	271.4 億円	—	473 億円	+26.5%

下期の見通し

- 原子力発電所向けの防犯・防災設備
- 電力会社向け各種工事



電力プラント



17

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

ここからは、セグメント毎に下期の見通しや、通期の予想をご説明いたします。

まず、電力事業ですが、上期に引き続き、下期も原子力発電所向けの防犯・防災設備を始めとする各種工事の売上を見込んでおり、通期では売上高480億円、セグメント利益14億円を予想しております。

また、電力会社向けの大口受注案件を見込んでおり、通期の受注高は580億円、受注残高は473億円を予想し、いずれも前期に比べて増加する見込みであります。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (化学・エネルギー事業)

化学・エネルギー事業	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 下期予想	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
売上高	407.9 億円	142.1 億円	550 億円	+120.9%
セグメント利益	4.7 億円	5.3 億円	10 億円	+44.7%
受注高	325.9 億円	224.1 億円	550 億円	+71.8%
受注残高	581.3 億円	—	663 億円	±0%

下期の見通し

- 石油会社向け動力設備の保守工事など
- 子会社 敷島機器の業績が寄与



敷島機器 船用・陸用エンジン



化学プラント



18

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

化学・エネルギー事業は、石油会社向け動力設備の保守工事などが前年同様に堅調に推移する見込みです。

また、北海道で船用および陸用のエンジン等を販売する敷島機器の業績が寄与し、売上高550億円、セグメント利益は10億円の増収増益を予想しております。

受注については、バイオマス焚き発電設備や、MOX燃料焼結炉の案件を見込んでおり、通期の受注高は550億円と前年に比べて大幅増となり、受注残高は663億円を予想しております。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (産業機械事業)

産業機械事業	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 下期予想	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
売上高	208.9 億円	371.1 億円	580 億円	△23.8%
セグメント利益	5.3 億円	12.7 億円	18 億円	△1.4%
受注高	223.9 億円	306.1 億円	530 億円	+19.4%
受注残高	607.6 億円	—	542 億円	△8.5%

下期の見通し

- リチウムイオン電池用関連設備、下期に案件が集中
- 子会社 日本ダイヤバルブの業績も順調に推移



日本ダイヤバルブ ダイアフラムバルブ他



リチウムイオン電池用関連設備

19

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

産業機械事業につきましては、先程ご説明の通り、下期に案件が集中することから、通期では売上高580億円、セグメント利益は18億円を予想しております。

また、受注については、リチウムイオン電池用関連設備の大口商談など、通期で530億円を予想しており、前期に比べて増加する見込みです。

なお、受注残高は、542億円を予想しております。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (素材・計測事業)

素材・計測事業	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 下期予想	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
売上高	5.2 億円	14.8 億円	20 億円	△15.2%
セグメント利益	△2.3 億円	1.0 億円	△ 1.3 億円	△55.2%
受注高	3.8 億円	16.2 億円	20 億円	△31.8%
受注残高	12.1 億円	—	13 億円	△6.2%

下期の見通し

- プリント基板素材の売上が減少
- 子会社 西華デジタルイメージの業績回復を見込む
- 経営資源の選択と集中を図り、業績回復に向け構造改革を進める



プリント基板



レーザー式ガス濃度計測装置



20

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

素材・計測事業につきましては、単年度黒字化を目指しておりましたが、先程ご説明の通り、プリント基板素材の売上は、通期では前年より減少する見込みであります。

しかしながら、子会社の西華デジタルイメージは、下期に業績回復を見込んでおりますので、事業全体では、通期の売上高を20億円、セグメント損失を1.3億円と予想しております。

経営資源の選択と集中を図るなど、業績回復に向けて構造改革を進めて参ります。

2019年3月期 通期 連結決算予想 (グローバル事業)

グローバル事業	2019年3月期 2Q実績	2019年3月期 下期予想	2019年3月期 通期予想	増減率予想 (対前期比)
売上高	53.2 億円	66.8 億円	120 億円	△3.7%
セグメント利益	1.0 億円	2.0 億円	3 億円	2018年3月通期実績 セグメント損失0.9億円
受注高	54.8 億円	65.2 億円	120 億円	△3.0%
受注残高	26.1 億円	—	24 億円	△2.2%

下期の見通し

- 欧州、米国の子会社業績は順調に推移



Seika Machinery, Inc.
自動車業界向けの基板実装関連設備





Seika Sangyo GmbH
産業用機械・電子情報システム機器





Seika Sangyo (Thailand) Co., Ltd.
自動車・化学・繊維産業向け産業用機械

21
Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

最後に、グローバル事業ですが、
欧米子会社は、下期も業績が順調に推移するなど、
事業全体での売上高は120億円、セグメント利益は3億円を
予想しており、前年に比べ業績が回復する見込みであります。

4. 中期経営計画

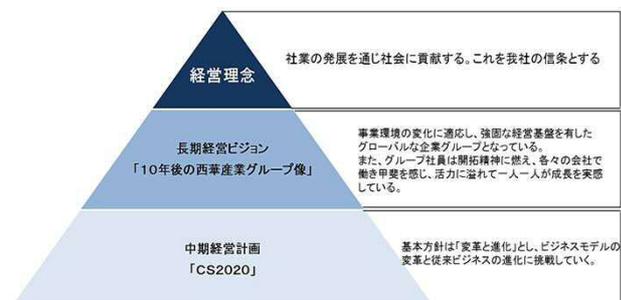


22 ページからは、当社の中期経営計画につきまして、
ご説明いたします。

中期経営計画 CS2020

2017年4月1日～2020年3月31日

長期経営ビジョン 10年後の西華産業グループ像 2017年～2026年



<長期経営方針>

1. ビジネスモデルの変革と進化を進め、さらにグループの収益力を向上させる。
2. 時代の変化に対応し、新規事業を創り出せる人材並びに、国内外で活躍できる人材の発掘と育成を行うと共に、経営資源を最適投入する。
3. 社員にとって働きがいがあり魅力溢れる職場環境を作り、生産性を向上させる。



23

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

当社は、昨年4月、ご覧の通り2026年に向けた長期経営ビジョン「10年後の西華産業グループ像」および3ヵ年の中期経営計画「CS2020」を策定いたしました。

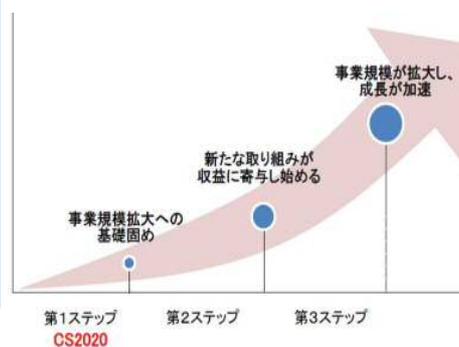
中期経営計画 CS2020

2017年4月1日～2020年3月31日

基本方針 「変革と進化」

全体戦略

1. 新たなビジネスモデルの構築
2. 従来ビジネスの進化
3. グループ経営・グローバル戦略の加速
4. 人材育成および職場環境の充実



24

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

こちらは、長期経営ビジョンの第1ステップとして位置付けて
おります中期経営計画CS2020でございます。

当社グループの「事業領域の多様化」を進めていく為に、
ビジネスモデルの「変革」と従来ビジネスの「進化」が必要不可欠と
考えて4つの全体戦略を推進しております。

中期経営計画 CS2020 2017年4月1日～2020年3月31日			
親会社株主に帰属する 当期純利益	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
目 標	22 億円	24 億円	27 億円
実績・予想	16.5 億円	(上期実績) 8.3 億円 (下期予想) 13.7 億円	
現進行期予想	—	22 億円	

2年目： 木目細かな営業活動を展開し、当期純利益目標24億円達成を目指す
最終年度：各事業の様々な施策を確実に実行し、当期純利益目標27億円の達成を目指す

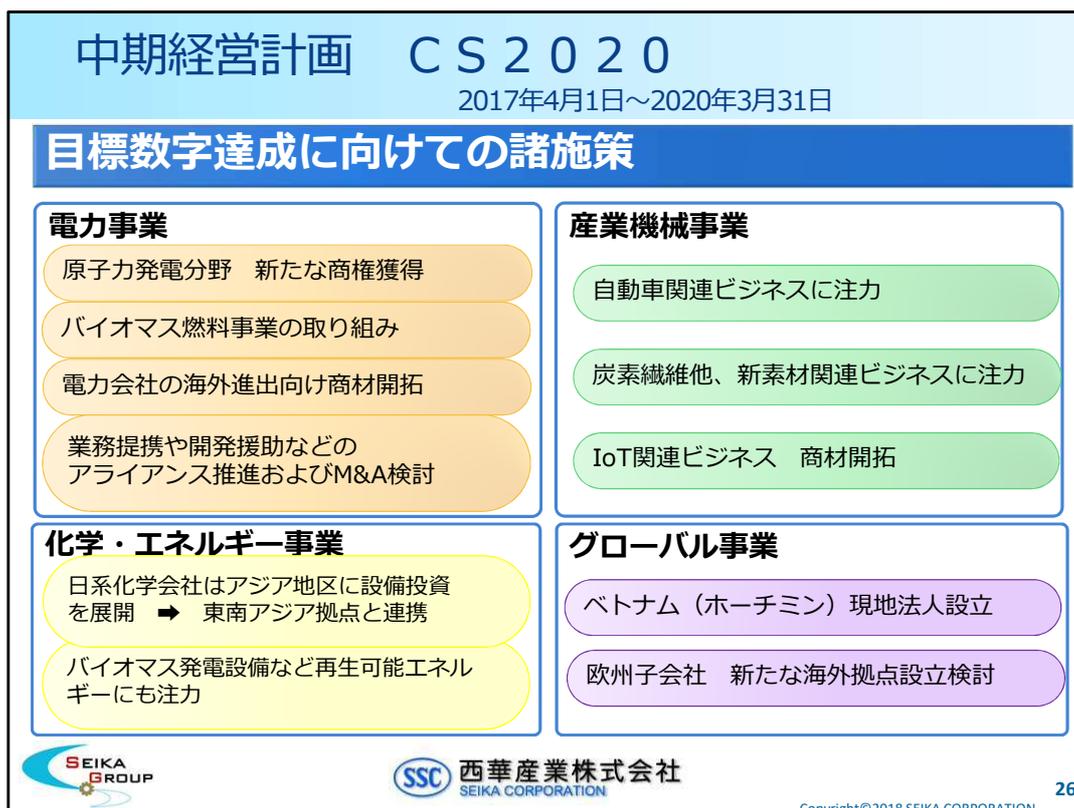



25
Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

中計初年度は、目標22億円に対して、実績は16.5億円となり、未達でありました。主な要因は、西擘貿易（上海）の特損関係が影響いたしました。

中計2年目の現進行期は、目標は24億円であります。現在の予想は22億円でありますので、目標数値には届いておりませんが、木目細かな営業活動を展開し、目標を達成したいと考えております。

また、最終年度の目標27億円に向け、各事業の様々な施策を確実に実行して参ります。



ここからは、中計最終年度の目標 27 億円の達成に向けて、各事業の施策についてご説明いたします。

まず始めに、電力事業ですが、底堅い収益をベースとして、新たな取り組みを検討しております。

具体的には、既に取り組んでおります原子力発電分野において、新たな商権を獲得するなど、注力して参ります。

また、バイオマス燃料事業の取り組みや、電力会社の海外進出向け商材開拓も進めており、電力事業を更に強固な収益基盤として参ります。

加えて、当社グループとシナジー効果が発揮できる会社との業務提携や、開発援助などのアライアンスを推進し、またM&Aも検討をして参ります。

化学・エネルギー事業ですが、
日系化学会社はアジア地区を中心に、工場新設など積極的な
設備投資を展開しておりますので、タイ、ベトナムなどの
東南アジア拠点と連携し、受注活動を進めて参ります。
また、エネルギー分野におきましては、
バイオマス発電設備など、再生可能エネルギーにも
引続き注力して参ります。

産業機械事業では、リチウムイオン電池用関連設備商談を
始めとする自動車関連ビジネスや、炭素繊維他の新素材関連
ビジネスに注力して参ります。

技術者不足、働き方改革などを追い風に、I o T関連ビジネスの
ニーズは大きく、スピード感を持って商材開拓に取り組んでいく
考えであります。

また、グローバル事業は、欧州子会社が新たな海外拠点の
設立を検討しており、拠点の拡充とともに、収益の拡大を
目指して参ります。

以上の様々な施策を着実に実行し、中期経営計画の
数値目標達成を目指して参ります。

5. トピックス



それでは、ここからは、当社のトピックスをご紹介します。

トピックス① ベトナム現地法人設立

商号 Seika Sangyo (Vietnam) Co.,Ltd.

所在地 ベトナム国ホーチミン市
Bitexco financial tower 34F

事業内容 各種機械、電子・通信機器、計器、工具、関連資材等の販売
据付工事・エンジニアリング、アフターサービスなどの輸出入、販売代理業務

資本金 640億ベトナムドン (約3億円)

営業開始 2019年1月予定

出資比率 西華産業株式会社 100%



Bitexco financial tower

中期経営計画CS2020
「グループ経営・グローバル戦略の加速」推進



28

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

まず始めに、当社がベトナムのホーチミン市で進めております現地法人設立につきまして、ご説明いたします。

ベトナムにおいては、インフラ、環境、製造業への設備投資が活発で、外資誘致を通じた工業化が進展しつつあります。

その様な状況を踏まえ、本年8月、ホーチミンに現地法人の設立を決定し、現在のところ来年の1月からの営業開始を予定しております。

すでに当社は、ベトナムでの製造拠点設立を計画している日系企業から数多くの引合を頂いており、手応えを感じております。

ベトナムの発展とともに、ベトナム現法も当社グループの大きな収益源となるよう、力強く育てていく所存であります。

トピックス②

欧州子会社 Tsurumi (Europe) GmbH (TEG)

所在地 ドイツ デュッセルドルフ

事業内容 工事用および設備用水中ポンプ
販売、レンタル事業

出資比率 西華産業株式会社 95% 鶴見製作所 5%



アプリケーション



建設工事用水中ポンプ



洪水対策用水中ポンプ



浄水設備用水中ポンプ



トンネル工事用
水中ポンプ

ポンプ各種



29

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

2つ目のトピックスは、当社のグローバル事業をけん引しております欧州子会社のTsurumi (Europe) GmbHをご紹介します。

TEGは、当社と鶴見製作所との合弁会社であり、欧州全域で、水中ポンプの販売およびレンタル事業を展開しております。

ここ数年

- ・ 欧州での在庫管理システムの構築、
- ・ 欧州各国での代理店ネットワークの拡充、
- ・ 南米チリなど販売地域が拡大したこと

により増収を続けており、今後も大きな期待を寄せております。

トピックス③ 自然災害への対応

平成30年7月豪雨に対する支援

日本赤十字社を通じて500万円寄付

社員による被災地でのボランティア活動への支援

平成30年北海道胆振東部地震に対する支援

北海道電力 苫東厚真発電所 復旧対応

地域の復興、発展に社業を通じて
今後とも貢献して参ります。



30

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

3つ目のトピックスにつきましては、この上期に相次ぎました自然災害への当社対応につきまして、ご紹介いたします。

平成30年豪雨につきましては、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や土砂災害が発生し、甚大な災害となりました。当社は、広島支店、岡山支店をはじめ被災地域に拠点があり、地域との関係も深いことから、被災された皆様の救済や被災地復興に役立てていただくため、日本赤十字社を通じて500万円の寄付を行いました。

また、社員の被災地でのボランティア活動に対する支援も行いました。

続く、北海道胆振東部地震におきましては、皆様ご存知の通り、北海道電力の苫東厚真発電所が地震の影響で被害を受け、ブラックアウトに至りました。

当社の札幌支店は、地震直後より、メーカーと共に、同発電所の復旧対応に協力して参りました。

多くの協力会社による現場対応により、早期の電力復旧につながりました。

この度の復旧対応に際しましては、北海道電力様から、当社を含む協力会社へ感謝のお言葉を頂いております。

微力ではございますが、地域の復興、発展に社業を通じて、今後とも貢献して参ります。

トピックス④

リチウムイオン電池用関連設備商談①

中国の国策、新エネルギー車規制

車載用リチウムイオン電池の需要増

リチウムイオン電池主要4部材 世界市場規模推移と予測

資料：矢野経済研究所



SSC 西華産業株式会社
SEIKA CORPORATION

31

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

最後のトピックスですが、皆様のご関心が高い中国向けリチウムイオン電池用関連設備の状況について、ご説明いたします。

中国は、国策として、EVおよびプラグインハイブリッド車などの新エネルギー車の累計生産・販売台数を2020年までに200万台、2025年までに700万台以上にする方針を打ち出しております。また、2019年より新エネルギー車（NEV）規制の発令に伴い、ガソリン車を年間3万台以上製造している完成車メーカーに対して「10%の新エネルギー車の製造」もしくは「他社からのクレジット購入」が義務付けられております。

国策と、新エネ車規制により、現状より更に自動車業界のEV化が進み、かつ、車載用リチウムイオン電池の需要が増えることは間違いないと考えており、引き続き当社の中核を成す事業として、積極的に展開しております。

トピックス④

リチウムイオン電池用関連設備商談②

業績の推移

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
受注高	24億円	181億円	226億円	97億円
売上高	—	22億円	81億円	89億円
受注残高	24億円	183億円	328億円	336億円

現進行期の実績・予想

	上期実績	下期予想	2019年3月期 (予想)
受注高	51億円	71億円	122億円
売上高	26億円	146億円	172億円
受注残高	361億円	286億円	286億円



現進行期につきましては、受注高は通期で122億円、
売上高は下期に受渡が集中することにより通期で172億円、
当期末の受注残高は286億円を予想しています。

6. 株主還元 配当性向



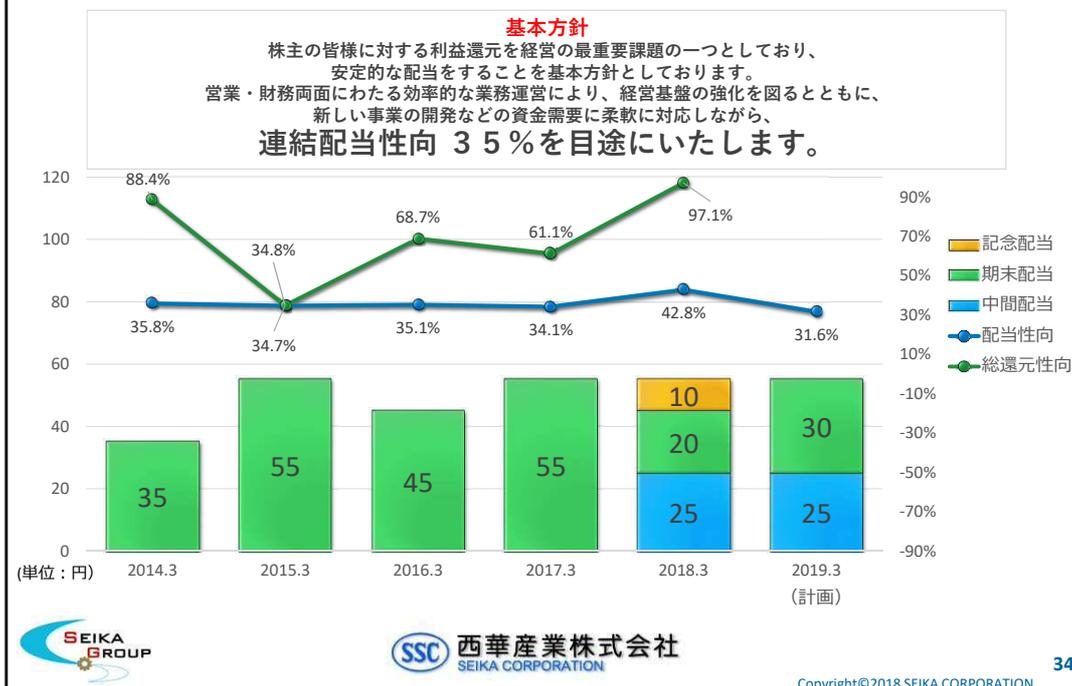
33

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

最後に、株主還元 配当性向につきまして、ご説明いたします。

株主還元 配当性向

2017年10月1日付で
普通株式5株を1株に併合しております。
影響する箇所につきましては、
株式併合後の数値にて表記しております。



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとしており、安定的な配当をする事を基本方針としております。ご覧の通り、連結配当性向35%を目途にいたしております。

2019年3月期の配当につきましては、中間配当25円に期末配当30円を加えた年間55円を予想しております。

配当方針および通期の業績等を総合的に勘案して積極的に株主還元に取り組んでまいります。

ご清聴ありがとうございました

将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

IRに関するお問い合わせ先

西華産業株式会社 経営企画本部 企画部

Tel : 03-5221-7117 Fax : 03-5221-7130

E-mail : SMB002@jp.seika.com



35

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

株主様をはじめとしたステークホルダーの皆様方から
「価値ある企業集団」とご評価頂ける様、努力して参ります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

以上をもちまして、2019年3月期 第2四半期の
決算説明を終了させていただきます。

皆様、ご清聴、誠にありがとうございました。

★参考資料★ 2019年3月期第2四半期 決算説明会



参考資料

1. 会社概要
2. 西華産業の歩み
3. 国内ネットワーク
4. 海外ネットワーク
5. 業績の推移
6. 2019年3月期 第2四半期 連結決算概要
7. 経営指標の推移
8. E S G の取組み



1.会社概要

社名	西華産業株式会社（英名：SEIKA CORPORATION）	
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	
設立	1947（昭和22）年10月1日	
代表者	代表取締役社長 櫻井 昭彦	
資本金	67億28百万円	
従業員数	933名（連結）314名（単体）	2018年9月現在
主な事業内容	各種プラント、機械装置・機器類、環境保全設備、 電子情報システム機器類の販売および輸出入	
事業所	国内：本社、大阪支社、福岡支店、広島支店ほか 海外：台北支店、ソウル支店、シンガポール支店ほか	全18拠点 全5拠点
関係会社 拠点	国内： 10社 国内拠点：34拠点	海外： 16社 海外拠点：21拠点



38

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

2.西華産業の歩み①



1947.10 旧三菱商事株式会社の解散に伴い、同社関係者が門司市（現北九州市門司区）に資本金195千円にて当社設立

1948～1951 日本各地に事務所設立（長崎、福岡、大阪、広島、東京、高松）

1961.10 株式を東京証券取引所第一部に上場

1974.01 ドイツ（デュッセルドルフ）に現地法人 Seika Sangyo GmbH を設立

1983.11 ドイツに（株）鶴見製作所との合弁会社 Tsurumi(Europe)GmbHを設立

1994.04 アメリカ（ロサンゼルス）に現地法人 SEIKA MACHINERY INC.を設立

2000.07 韓国（ソウル）にソウル支店開設

2001.08 登記上の本店を北九州市小倉北区から東京都千代田区へ移転

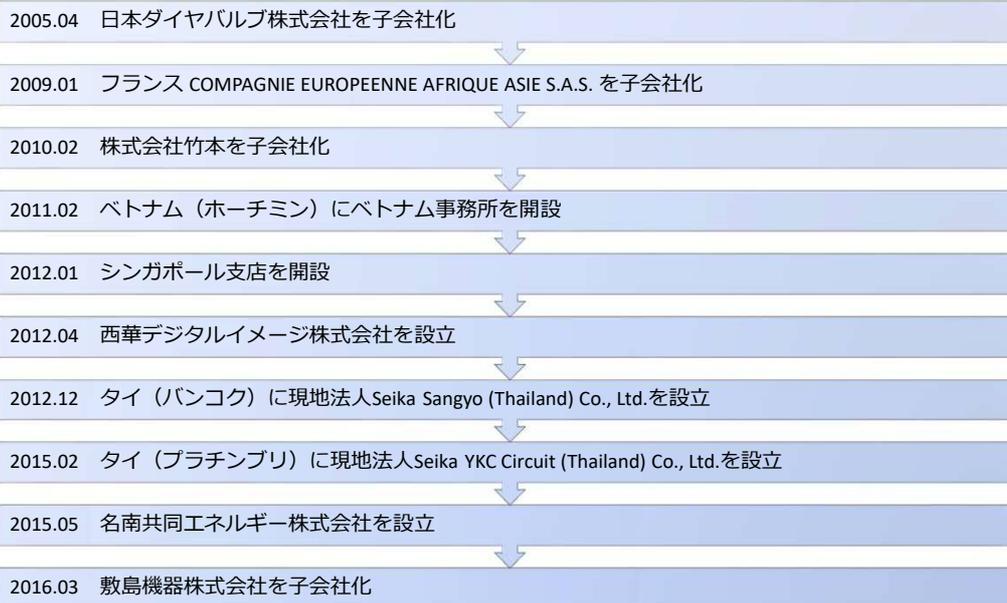
2004.01 中国（上海）に現地法人西華貿易（上海）有限公司を設立



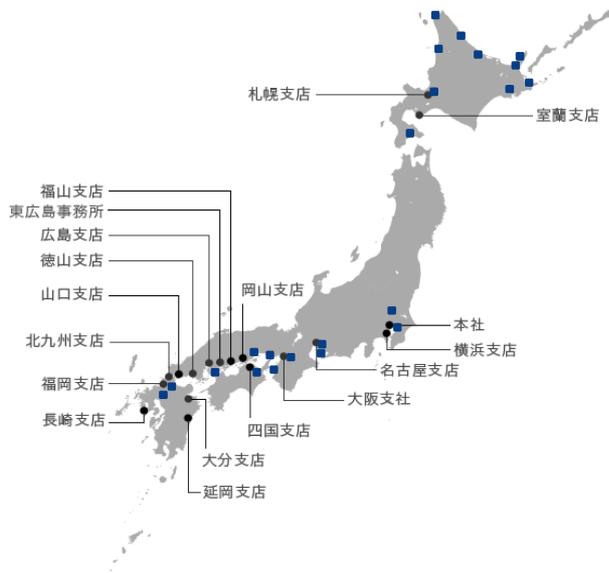
39

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

2.西華産業の歩み②



3.国内ネットワーク



●西華産業

東京（本社）、大阪、札幌、室蘭、横浜、名古屋、四国、岡山、福山、広島、東広島、徳山、山口、福岡、北九州、大分、延岡、長崎

■日本ダイヤバルブ

東京（本社）、大阪、名古屋、岡山、北九州

■竹本 神戸（本社）、高砂、三原

■東西実業 東京

■竹本 神戸（本社）、高砂、三原

■エステック 東京（本社）、大阪、つくば

■デンフィートライト

東京（本社）、大阪、高松、福岡

■日本エゼクターエンジニアリング

大阪（本社）、和歌山

■西華デジタルイメージ 東京

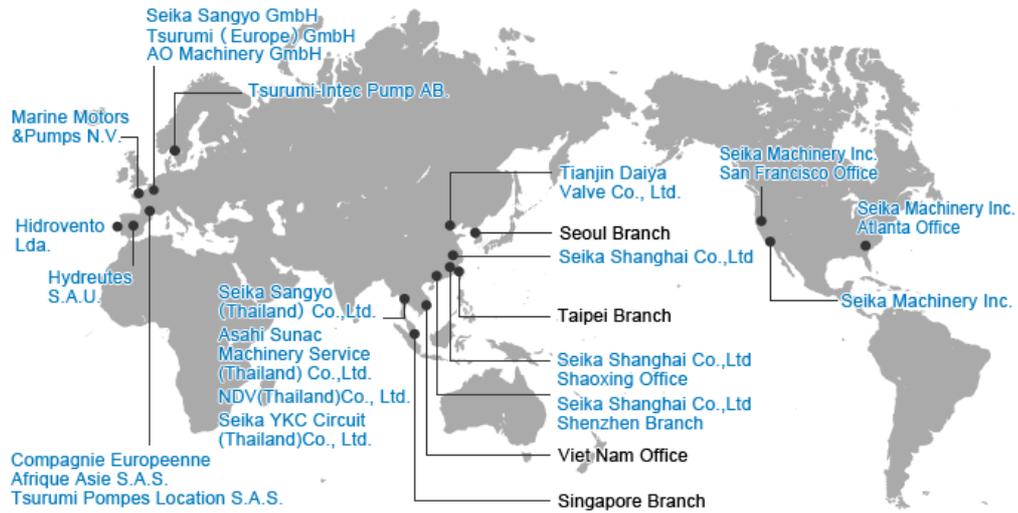
■名南共同エネルギー 知多

■敷島機器

札幌（本社）、羽幌、函館、浦河、道東、根室、標津、羅臼、湧別、稚内、枝幸

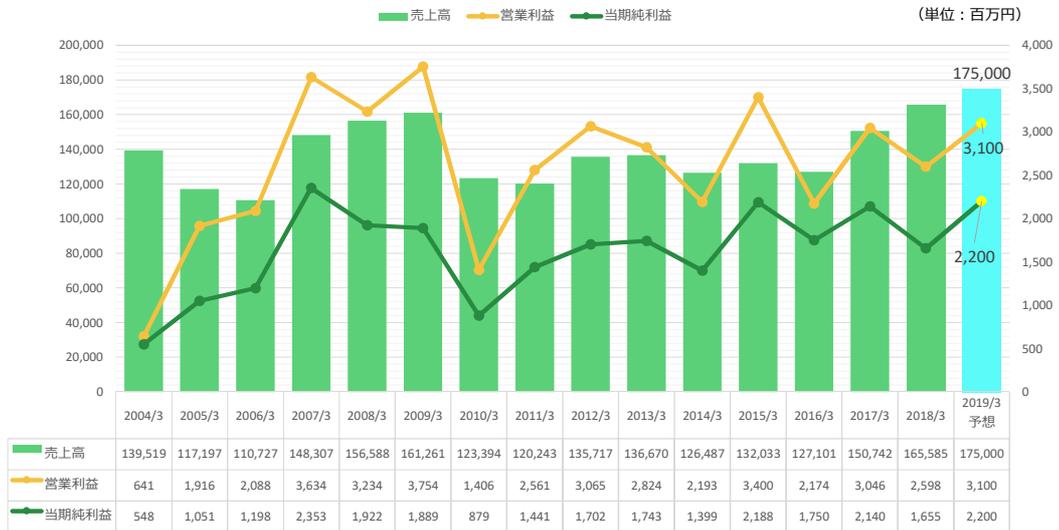


4.海外ネットワーク



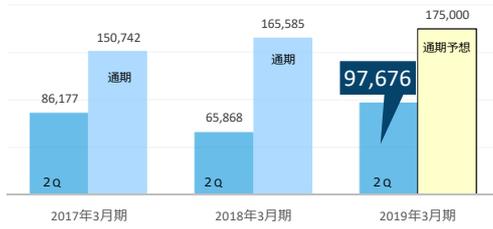
5.業績の推移

連結 売上高・利益の推移



6.2019年3月期 第2四半期 連結決算概要①

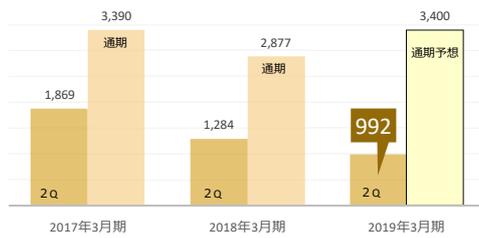
連結 売上高(単位：百万円)



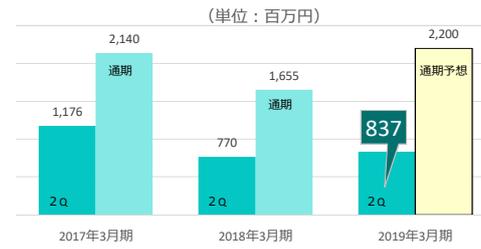
連結 営業利益 (単位：百万円)



連結 経常利益 (単位：百万円)

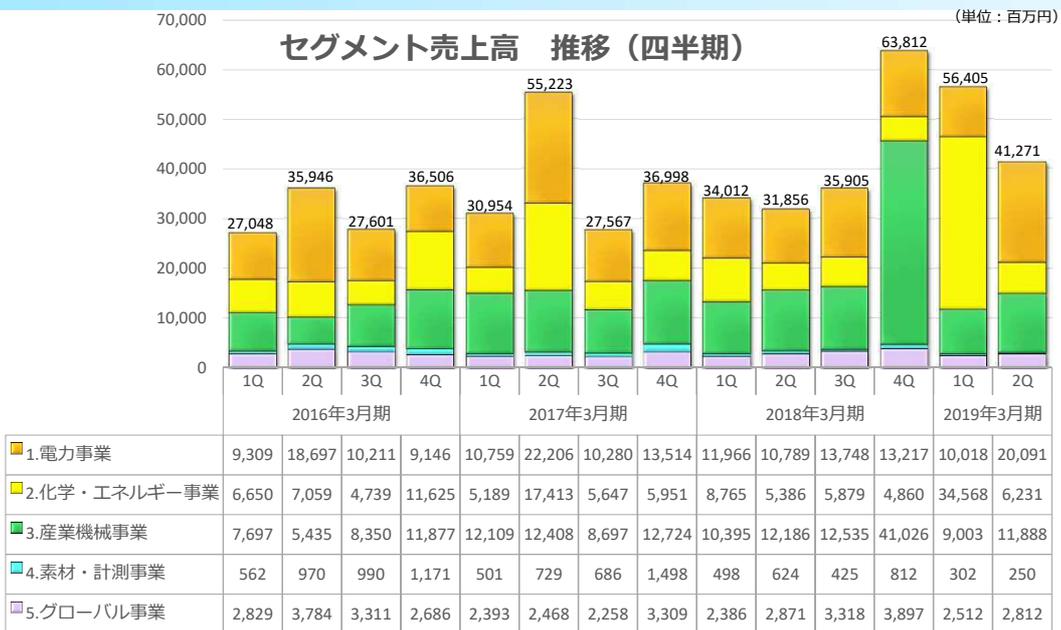


連結 親会社に帰属する四半期(当期)純利益



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

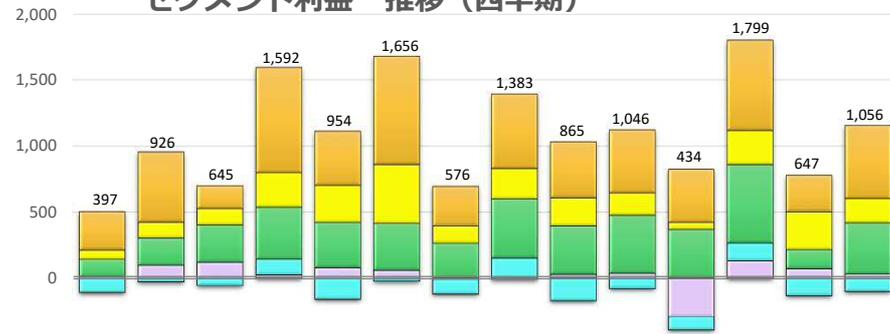
6.2019年3月期 第2四半期 連結決算概要② (セグメント別 売上高推移)



6.2019年3月期 第2四半期 連結決算概要③ (セグメント別 セグメント利益推移)

セグメント利益 推移 (四半期)

(単位：百万円)

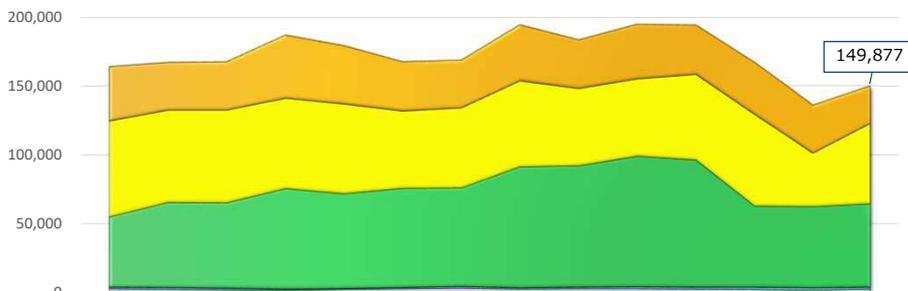


	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
1.電力事業	288	529	171	794	406	818	296	561	423	474	399	681	273	550
2.化学・エネルギー事業	70	119	121	260	280	445	130	229	211	168	55	257	288	185
3.産業機械事業	131	207	285	394	344	354	267	448	369	442	369	594	143	387
4.素材・計測事業	△ 107	△ 27	△ 54	118	△ 157	△ 22	△ 105	154	△ 168	△ 76	△ 97	132	△ 131	△ 99
5.グローバル事業	13	99	121	27	80	62	△ 13	△ 9	29	37	△ 292	135	73	33



6.2019年3月期 第2四半期 連結決算概要④ (セグメント別 受注残高推移)

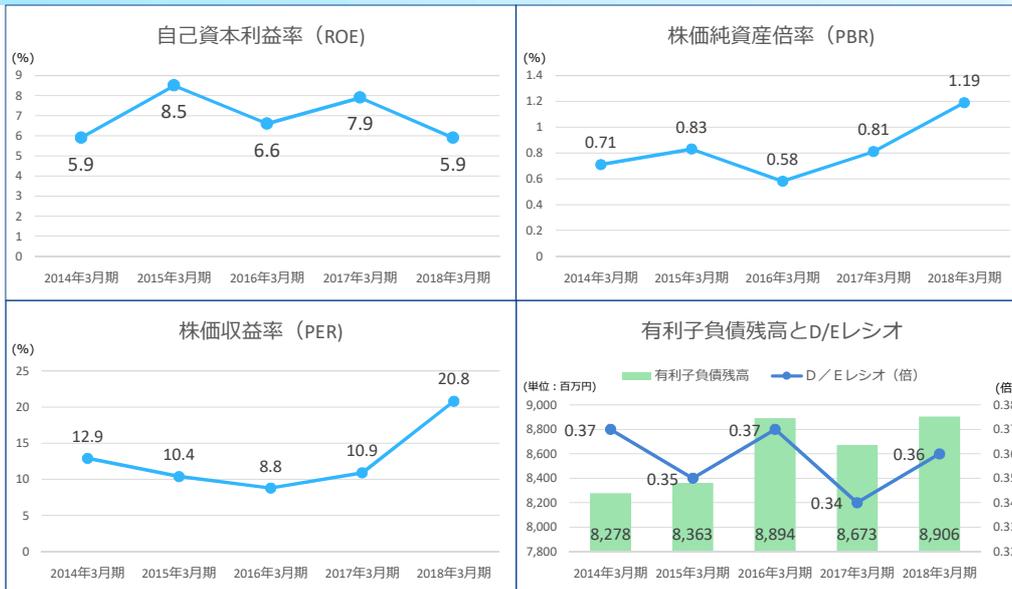
受注残高推移 連結 (単位:百万円)



	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期	
1.電力事業	39,306	34,445	34,743	45,440	42,109	35,673	34,431	40,349	35,052	39,339	35,402	37,387	34,682	27,149
2.化学・エネルギー事業	69,475	66,880	67,122	65,618	64,887	56,033	58,017	62,320	55,836	56,090	62,038	66,336	38,825	58,135
3.産業機械事業	51,287	61,933	62,242	73,045	69,028	72,129	71,695	87,923	88,235	94,895	92,500	59,257	59,159	60,759
4.素材・計測事業	997	1,243	949	617	418	667	1,095	811	992	1,284	1,079	1,387	1,312	1,217
5.グローバル事業	2,827	2,323	2,264	1,804	2,497	2,895	3,281	2,552	2,873	2,800	2,635	2,456	2,055	2,614



7.経営指標の推移



Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

8. ESGの取り組み①



環境型配慮商品の拡販 Environment

2019年3月期第2四半期 環境配慮型商品 受注実績	受注件数	受注高
省エネ・省資源・高効率化	5,377件	533.0億円
公害防止	476件	19.4億円
リサイクル・リユース	313件	4.2億円
合計	6,166件	556.6億円



49

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

8. E S Gの取り組み②



社会責任（働き方改革） Social



女性の活躍推進

女性総合職採用の強化 女性社員のキャリア形成支援 女性管理職の登用



従業員の健康促進

プレミアムフライデー制度の導入 有給休暇の取得推進
インフルエンザ予防接種費用の会社負担

人材育成の取り組み

各種階層別研修 海外研修派遣制度



50

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION

8. E S Gの取り組み③



ガバナンス Governance

コーポレートガバナンス・コードに基づいた施策

取締役会の実効性評価 実施

コーポレートガバナンス改訂対応

英語での情報提供

招集通知の一部、決算説明会資料、FACT BOOK



51

Copyright©2018 SEIKA CORPORATION